

# おおさか

きなびやの

宝



大阪大が4月に本格始動させた「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」。

大学院の基礎工学・理学・工学各研究科から5〜10%の学生を選抜し、日本の物質科学の将来を担う「リーダー候補生(カデット)」

を5年間で育てるプログラムだ。

プログラムコーディネーターの木村剛教授によると、学生に求めるのは「高度な専門性」「俯瞰的視点」「隠れた事実を見逃さないセレンディピティ的な視点」「柔軟性」「国際突破力」など七つの能力だ。

「実際にリーダーとして活躍する10〜20年後にどんな問題があっても柔軟に対応し、自らの能力を駆使して解決できる人材を育てたい」。木村教授はそう意気込む。

## インタラクティブ物質科学・カデットプログラム



4月に本格始動した大阪大のインタラクティブ物質科学・カデットプログラムの説明会  
—豊中市の同大で

## 大阪大学

「エリート養成コース」的な雰囲気です。

「エリート養成コース」的な雰囲気です。という言葉も寄せられた。

側のサポート体制が整う一方、教育課程は厳しい。専門以外の研究室での履修に加え、海外や企業、連携研究機関でのインターンシップ(実地訓練)は必須。途中で3度の「資格試験、研究発表」が関門となり、落ちても「留年はない」、つまりサポリは許されない。連携機関からは「修羅場を用意した」と

プログラムを選択した浅野元紀さん(23)は「自分の可能性を広げるいいチャンス」▽児玉拓也さん(23)は「専門を極める」▽松本咲さん(23)も「苦勞しいと人は成長しない。しんどい5年間を経験したい」と話し、チャレンジ精神にあふれる人材がそろった。「日本のものづくりを支えるリーダーになつてほしい」。大学側は試験に挑む24人に大きな期待を寄せている。

# 将来担うリーダー育成

【江口一】